

佐保会兵庫県支部だより

第 16 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市東灘区魚崎北町4-15-14-707

☎ 658 ☎ 078 - 451 - 0654

ハーバーランド



林 利三郎氏画

巻頭言

香川 敦子(昭12・理)

オリンピックがすんで、ああ、動させる。そうした場合は、ある時、オリンピックはいやだなと思った。あるところで行われ、競った仲間夢中になってテレビに見入ったけれど。

薬物を注射する選手はあとをたない。それをチェックする方法も厳密になる。日本にしても金メダルをとるために、小中学校生徒から素質のあるものの発掘に執心する。強化合宿、外国留学と血道をあげる。どうしてそういうことをするのだろうか。

金メダル、世界一、世界での序列に魅せられてのことである。オリンピックは参加することに意義があるといったのは大嘘か。オリンピックのために全心、全生活をそそぎこむことは、その人の人格形成にプラスも多くあろう。マイナスはもっと多くあろう。人権はまもられるのだろうか。

輪切りといわれる、中学・高校の成績序列による人間観。スポーツ、音楽も、地区、県、近畿地方、全国とピラミッドの頂点をめざし、序列の中のどこかに位置づけたいと安心できない。

競うときの真剣さは美しい。本人もみがかれ、観ている者をも感あると考えたい。

日本一高い山ではなくても、丘があり、峯々があつての景観である。人生も参加することに意義がある

支部総会報告

平成四年度 支部役員

平成四年度支部総会は、会場の都合で、例年より約一ヶ月遅れの七月四日十時半より、神戸東急イン六甲の間において開かれた。出席者四十九名、寛いだ雰囲気の中で午後二時半会を閉じた。

総会内容

司会 内山美智子(昭20理)

物故者に対し、黙禱

一、開会のことば

副支部長 内山美智子

二、支部長あいさつ

津野貞子(昭8家)

三、新入会員歓迎のことば

津野貞子

四、新入会員あいさつ

中塚亜希子(文英)

五、議長選出

六、議事

(1)平成三年度事業報告

支部報告 柳瀬あや子(昭42理)

本部報告 坪根ミキ(昭16B理)

佐保短大報告

八木静子(昭9文)

大学婦人協会報告

増田千代(昭12家)

(2)平成三年度会計報告

立花紀子(昭38理数)

(3)平成三年度会計監査報告

喜多朝子(昭29文地)

(4)平成四年度事業計画(案) 柳瀬
(5)平成四年度会計予算(案) 立花
(6)「支部だより」編集委員挨拶

支部長

津野 貞子(昭8家)

前編集委員 曾谷愛子(昭12家)

副支部長

新編集委員 香川敦子(昭12理)

安達 英子(昭18文)

七、記念品贈呈(卒業後55年の方)

内山美智子(昭20理)

藤井照子(文) 皆川綾子(理)

事務局

香川敦子(理) 曾谷愛子(家)

立花 紀子(昭38理数)

増田千代(家) 酒見照子(家)

柳瀬あや子(昭42文国)

二階堂孝(保)

八木 幸子(昭34理数)

以上、七人の方にお喜びの堆朱のお着が贈られた。

会計監査

八、講演「高校生をとりまく環境」

庄司 幸子(昭26理)

大山明美(昭31理数)

喜多 朝子(昭29文地)

県立尼崎稲園高等学校長の大山

本部役員

先生が、変化しつつある高校の現状や問題点、さらに今後の学校教育のあり方などについて興味深く話して下さった。要旨は次頁に記載。

理事

評議員

津野 貞子(昭8家)

九、会 食

坪根 ミキ(昭16B理)

会食には客員増田先生も御参加下さり、楽しい話が次々と出て、和やかに会は進み、最後は全員で校歌を合唱し、名残を惜しみつつ閉会となった。

内山美智子(昭20理)

十、閉会のことば

山川はる江(昭19保)

支部だより編集委員

立花 紀子(昭38理数)

八木 静子(昭9文)

大久保勝美(昭31文国)

大学婦人協会役員

増田 千代(昭12家)

副支部長 安達英子(昭18文)

香川 敦子(昭12理)

今年は事業計画として若い会員の参加を促進する会合を設置することになった。

川口 汐子(昭19文国)

(10ページを参考に)ご覧下さい。

山下 静香(昭22家)

安東 和子(昭38理植)

土井千鶴子(昭36家被)

支部分より編集委員

安東 和子(昭38理植)

支部分より編集委員

安東 和子(昭38理植)

支部分より編集委員

安東 和子(昭38理植)

支部分より編集委員

安東 和子(昭38理植)

支部分より編集委員

安東 和子(昭38理植)

—平成3年度会計報告並びに平成4年度会計予算—

(H3.4.1~H4.3.31)

(H4.4.1~H5.3.31)

収入の部			支出の部		
費目	平成3年度決算	平成4年度予算	費目	平成3年度決算	平成4年度予算
前年度繰越	2,248,648	2,387,534	本部会費	787,000	650,000
会費	1,635,800	1,350,000	総会費	46,430	50,000
内			通信印刷費	238,436	200,000
本部会費	787,000	650,000	旅費	25,680	30,000
訳			事業費	163,408	250,000
支部会費	848,800	700,000	内		
預金利息	234,097	20,000	支部だより印刷費	163,408	180,000
本部より補助	42,180	40,000	睦会補助	—	30,000
寄付			若草補助	—	30,000
合計	4,160,725	3,797,534	訳		
			佐保婦人学級補助	—	10,000
			名簿印刷費	361,118	—
			慶弔費	35,000	50,000
			事務費	106,749	100,000
			予備費	9,370	10,000
			小計	1,773,191	1,340,000
			次年度繰越	2,387,534	2,457,534
			合計	4,160,725	3,797,534

講演

私は昨年県立尼崎稲園高等学校長に任命された。兵庫県の高校では一昨年来いろいろな問題が起きたが、学校現場からその背景の高校事情などについて、その一端でもお話できればと思う。

県では毎年教育指導の重点目標を掲げているが、本年度は「明日を担う心豊かな人づくり―学校・家庭・地域の連携と教育力の向上―」をうたっている。現在、学校教育においてもっとも大事なことは、心豊かな人間を育成することだ。今こそ学校は何をなすべきか、家庭は何をなすべきか、地域社会はなにをなすべきかを真剣に考えなければならぬ時期である。又、九月からは、第二土曜日は学

高校生をとりまく環境 (要旨)

校が休みになる。更に、文部省は高校において単位制の導入を発表したが、このように今、学校は大きく変わろうとしている。

先日、高校生が友達を殺した記事が新聞に載っていた。学校が今までと変わったのではないかと感じられた方も多いのではないだろうか。

私は淡路の伝統校で暫く勤めた後、尼崎の教育困難校といわれた高校に赴任したが、その時「これ



大山明美 (昭31・理数)

私が学年主任になった時、今では管理教育と非難されるかも知れないが「静にせよ」「授業はきっちり」と始める。「遅刻をするな」「服装の乱れを直す」ことを厳しく指導した。多くの教師が厳しい姿勢で熱心に指導した結果、現在、尼崎では一番評判の良い立派な学校になっている。現在も各高校では様々な問題を抱えているが、教師は苦悩しながらも学校を生徒を良くしたいと頑張っているのである。

神戸高塚高校でも同じであった。非常に熱心な教師があのような場面にでくわさざるを得ない現状があることも知って戴きたい。

カウンセリングを通してわかったことであるが、問題のある生徒も実は苦しんでいるのである。例えば、ある生徒は人と会うのが怖く、自分の部屋から一步も外へ出られない状態であった。彼は幼児の時から、自分で靴を履いたり、服のボタンかけをさせてもらえなかった苦悩を話していた。実際、人間は誰でも、自己を実現したいという強い欲求を持っておりこれを奪われた時は非常に苦しむ。自分をより良いものに高め、高校生なりに社会規範を守って生活したい苦である。

又、生徒の中には、人間本来の喜怒哀楽の感情さえ奪われてしまつて、残酷な劇画の世界や閉ざされた世界の出来事、あるいは残酷な場面にしかワクワクできない者もいるのである。これらの生徒たちと深く接するうちに、多くの生徒たちが非常に苦しんでいることが分かった。

残念ながら、現在の家庭は子供の自己実現を充足させるどころか、疎外する方向に働いているのではないかとさえ思われてくる。ある学校では、冬になるとマラソンの練習をさせているが、雨の日の練習の翌日には保護者から「子供が肺炎になったらどうしてくれるのか」と電話がかかってくる。また「子供をなぜ留年にしたのか」と文句をいう。親の愛情とは、このように子供をただ庇うのではなく、むしろ、子供に困難なことを体験させながら、その子供の成長を見守ってやることである。現在の家庭は、本人が伸びようとするのを過保護のもとに、逆に奪ってしまっていることが多い。

また、科学技術の進歩や家庭電化の普及で、昔のように家事の分担をしなくてもよくなったため、様々な経験の中で物事を学んだり、

親とのふれあいの場が少なくなつたのも、子供にとって不幸なことである。これからの「休日になる土曜日」には、ぜひ親子の触れ合いを望みたい。

その上、権利の主張が横行し、学校の問題もすぐ訴訟を起こされる時代になったことも、教師は臆病になり、子供たちからは経験を奪う結果になっている。運動中に事故があるとすぐ訴訟につながるなど、熱意のある教師も一生懸命にやればやる程、危険な目に会うことが多く、やる気を失なう。

神戸高塚高校事件後、マスコミの教師バッシングは凄まじかった。売らんかな主義の観点から取材を行い、真実を伝えてくれなかった。学校は一度マスコミに叩かれると、回復が難しく、教育困難校に陥ってしまうことがある。

子供たちの自己実現の欲求とは、何事にも挑戦したい気持ちで、そこには失敗もあり危険なことも存在する。今後、心豊かな子供を育てていくために、学校、家庭、社会は何をすれば良いのかを、各々の立場で真剣に考えることが大切である。マスコミは営利主義の取材を止め、明日の日本を担う子供たちの将来を温かく見守って欲しいと願うのである。

が学校と言えるだろうか」と非常に驚いたものである。例えば、校長のマイクの話の音が聞きとれない、教科によっては生徒が騒いで授業が成立しない場合もあった。「生徒にもっと厳しく注意すべきだ」「管理教育はすべきでない」と意見が対立しても学校は生徒の学力を身につけさせるところである。こういう状態を学校といえるのだろうかと大変疑問に思った。

分をより良いものに高め、高校生なりに社会規範を守って生活したい苦である。

また、科学技術の進歩や家庭電化の普及で、昔のように家事の分担をしなくてもよくなったため、様々な経験の中で物事を学んだり、

いた願うのである。



人に語るほどの人生経験をしたわけでもない。信念をもって生きてきたわけでもない。ただ太古よりの大いなるいのちの流れの中に、小さい泡として生を受け、抗しがたい世の定め流されながら、いくつかの分岐点で私に許される範囲の選択をし、自分でもよくわからない「何か」を求めて生きてきたに過ぎない。大先輩の丸岡秀子さんの著書を拝見すると、物の見方感じ方に雲泥の差のあることを感じる。多くの佐保会員の方々がしっかりした生き方をしておられるのに、私はただいたずらに歳月を重ね、自己中心に生きて来たに過ぎないのである。したがって私の歩んだ道など書きとめるに値しないのであるが、ただ原稿依頼を断りきれず、拙文をさらすことになった。

なぜ私は修道女(シスター)に



なるという、第三者から見ればアブノーマルな奇妙な道を選んだのだろう。人からも「どうして？」

とよく問われるが、私自身それに対する明確な答えをもっていない。若い時に期せずして出会ったことの積み重ねがこういう道に導いたのであろう。

昭和七年生まれの私は、同年代の人と同じように戦時色の濃い教育を受け、一億一心、撃ちてしまの精神に踊らされた。ところが女学校一年の八月十五日、負けないはずの神国日本が無条件降伏

いのちの流れの中で

福島

由規子 (昭32・家被)

となった時は、それまで学校で教えられてきたことを鶴呑みにして

ただだけに大きな衝撃を受けた。またその数か月後、大事に持っていた教科書のかんりのページの文章や語句を墨で消さなければなら

なかった時、今まで私は何を学んできたのだろう、覚えてきたことは間違いだらけだったのだと、言葉には言い尽くせぬ虚しさを味わった。

こうしたことは戦後の物のない不自由な惨めな生活体験と

もに、私に形あるものではなく、目に見えない真実なものを希求させた。

高校生になった頃、家から徒歩で五分ぐらいのところ教会が建った。キリスト教が戦後の日本の殺伐とした精神風土に受容されて

いた時で、私も関心をもち、ある日曜日人々にまぎれて、中にはいた。訳のわからぬことばかりであった。それに、表札の「カトリック教会」の意味がわからず、に

せ宗教ではないかとかなり疑った。戦時中間違ったことばかり教えられたので宗教に対する不信感もあった。

しかし不思議なもので、そこで迷いながらも教理を学び、十九歳のクリスマスに洗礼を受けた。その頃、その阿倍野カトリック教会

(大阪)のすぐ近くにカナダからシスターたちが住むようになり、よく見かけるようになった。遠くから見るシスターたちは明るく美しかった。未婚のカトリック女性

には結婚して家庭をもつ道と、独身を守って生涯を神に捧げる道と

二つの道があることがわかり、私は長年迷いに迷った上で後者を選んだ。智恵ある人から見れば愚かな道であるが、神に仕えるには全

くふさわしくない私を、修道会に寛大に受け入れてくださったことに心から感謝した。二十六歳の時

であった。その後は修道会が命じる所に行き、そこで与えられる仕事についてきたのである。カトリック教会ではかつて、洗礼を受ける準備をしている人を

「求道者」と呼んでいた。いつの頃からかは生涯、求道者であると思うようになった。「生涯求道」なのである。そして私は「求道」を佛教的に「グドウ」と読みたい。

グドウは「愚道」に通じ、私は好んでいる。今も迷いながら愚かな求道の毎日である。

昭和三八年、賢明短大に家政科が開設された時、私はそこに行くように命じられた。無我夢中で若い情熱をそこに注いだ。その後いろいろ仕事の内容が変わったので、

まとまったライフワークなどはできそうもないし、また宗教者でありながら宗教性に乏しく、むしろ合理的な見方をする方なので、何もかも中途半端なことであるはずなのだが、この点も徹

底しない生き方をしている。「愚道」も奥が深い。

本当に語る値打ちのない、いのちの流れに浮かぶ小さな泡の物語である。生まれてすぐにも消えてしまいうような泡でありながら、多くの人々に助けられ支えられ、また人智を超えた神のはからいに導かれて、今日もこの小さな泡はい

のちの大河の中で旅をつづけている。「何か」を求めながら。「何か」——それは生かされているいのちに目覚めることだろうかとも思う。

ふくしまゆきこ

昭和七 浦和市に生まれる。

昭和二六 大阪府立天王寺高等学校卒業。住友銀行勤務。

昭和三一 奈良女子大学家政学部被服学科卒業。

昭和三四 聖母奉献修道会入会。

昭和三八 賢明女子学院短期大学家政科勤務。

昭和四四 大阪市立大学大学院家政学研究科被服学専攻修了。

昭和五三 賢明女子学院短期大学長兼同学院中高等学校校長。

昭和五九 同中学高等学校校長。現在にいたる。

インタビュー

聞きて

香川 敦子

喜多朝子さん

〔昭29・文地
昭45・文修地〕

研究こぼれ話

「こんにちは、喜多さんは新制の奈良女子大ですよ。最近の面白そうな御研究のお話をお伺いしようと思ってきました。どうぞよろしく」

「大学院にいかれたのは？」
「昭和四十三年ですから、大学院ができたときです」

「え、私は姫路西高から奈良に行きましたから、香川先生が、西高で新任の御挨拶をなさったの覚えています」

「有名な奈良の日吉館の田村さんとはどんな御関係？ 姫路でありおあいしないのに、二三度あそこでおめにかかりましたね」

「早い頃の正倉院展に三宅先生につれて行っていただいたり、奈良女の受験のときとまったりしたのがきっかけで、父が奈良額田郡の出で、田村キヨノさんの隣村なので、おばさんがそれを覚えていて下さって、奈良女のと時から、よくお世話になりました。特に、森 蘊先生（中世の庭園史・桂・修学院離宮・小堀遠州の研究で有名。佐保会員二〇〇人程が三十余年にわたって教えを受けた。亡くなられて四年。今も先生を偲ぶ「槐忌」が続いている）が単身で、奈良文化財研究所に赴任されて、日



英賀城跡土塁

吉館に食事においでになるので、日吉館のおばさんから、お話をうかがうようにすすめられたのです。それが御縁ですと教えを受け、歴史地理、都市地理のようなことにかかわってきました。私の研究としては山口県の秋吉台の片隅に、フィールドをもっているのですが、明治初期の村の人については、今の人よりもっとよく知っています。ではないかと思えます。今はその村や周辺の町の地租の改正にかかわる地籍図を調べています」

「と終ったということも書いてありました。その地図に、しみが付いていたりすると、雪かきの中で一生懸命測って書いたのだと思いますよ。」
「今、姫路市の英賀の明治二十九年の地籍図のコピーが手に入ったので調べています」
「私十年前まで、英賀の南の西浜町に住んでいましたので、三木氏のお墓だの、土のいや大きな棕の木などみて歩きました」
「あそこは、三木氏の城で、秀吉に滅ぼされたといわれていますが、そのすぐあとにかかれた英城日記というものが残っているのです。歴史の資料としては問題もあるのですが、城下町、寺内町、市場町の機能をもった、中世の相当地な町だったと思うのですよ。三木氏も九州におちのびて、二年後に戻り、河野氏をのって大庄屋となつています」

「昭和二十四年、私は仙台のトリック系の女子高から転任して来たので、広い運動場に男女生徒がぎっしり並んでいるところで壇上にたたされ……私はまぶしいです……といった覚えがある。」

「地籍図をつくることから、生活の匂のするものでしょうね」

「県女、西高と、奈良女高師御出身の、三宅先生（地歴）、河島先生（数学）に教えていただきました。特に三宅先生が、よく帷子先生のお話をなさって、その影響を受けて奈良にいったような気がします。」

「活的です。国からひな型が送られて、村の庄屋だった人などもかいているのですが、村のどの記録にもでて来ないような人の名前が、その地籍図にかかれてあったり、十二月もおしせまった日付と、や

「後には龜山にうつった英賀本徳寺も石山本徳寺と関係が深く、証如上人日記にも出てきます。また塚の天王寺屋敷（お茶会）にも、あかの橋善海という人名や、

「私こそ今やっていることをきいて頂いて楽しゅうございました」

表紙―絵の言葉―

林 利三郎

今年には加古川線の無人駅を描くつもりでしたが、出かけてみると、昔のままの木造の小さい駅は取り壊され、バス停のような駅になっていました。急遽、今秋オープンしたハーバーランドを描きました。

私は神戸新聞社にいましたとき、昭和三十六年二月と三十七年五月まで姫路にいました。社宅は野里の五郎右衛門邸でした。城下町が好きで龍野町や柿山伏のあたりをよく歩きました。龍野や室津にもスケッチに行きました。相生、赤穂、山崎、福崎、龍野にも支局があり、訪ねていては酒盛りをしました。

輝き過ぎる来しごと

—そして今を生きる—

前田タケコ(昭6・家)



を迎えることができたのは、指導
主事諸先生(歴代の指導主事は佐
保会員であった)のご指導による
ものと、今なお感謝の念でいっぱい
である。

定年の秋、はからずも家庭科教
育の振興に寄与したとの理由で、
兵庫県教育功労賞を授与された事
も感激の極みであった。

高校退職後、兵庫女子短期大学
に迎えられた。昭和四十三年度よ
り、教育の機会均等の観点から、
全国四短大で、勤労と勉学を両立
させる第三部制(昼間二交替制)
が発足し、私は主として同部の指
導を担うことになった。最初は、
先輩校はなく暗中模索の状態で、
学生指導にあたった。同時に発足
した他の三短大との連絡協議会や
協力会社との会合の開催、又個々
の学生との対話時間の捻出に努力
したり、会社での学生達の作業現
場の見学等々、三部所属の教師は
学生の実態把握に懸命であった。

私は第三部の主任としての最重
要課題は、第三部を世間に認識し
てもらふことだと考えた。先ず学
生の質の向上をはかり、取得資格
を生かせる分野に進出させること
が第一と思ひ、休日出勤などによ
り補講を実施し、出身県の教員採
用試験に挑戦させた。少人数では
あるが合格者を出し、さらに生活
改良普及員の資格試験(現在は四
年生大卒のみ有資格)への難関を
突破した者もかなりの数にのぼっ
た。又夏期休暇中に受講の上保母
資格を取得する者、調理現場就業
の学生が調理師に多数合格したこ
とも幸であった。しかし近年は学
生数の減少に伴ない、受験意欲の
後退は淋しい限りである。

昭和五十九年の秋、私は産業教
育百年記念式典に招かれ、天皇陛
下ご臨席のもと、文部大臣賞を授
与されたが、予期せぬ光栄にとま
どいを感じながらも、百年という
記念すべき時に教育現場に在籍し
ていた事への幸運をことの外喜ば
しく思った。

他方、大学教師として求められ
ているものに研究業績がある。私
は一年一論文作成を目指し、学内
発行の論集へ投稿。なお学外では
神戸女子大学立石睦子教授を主軸
に、二・三名の同志と共同研究に
よる論文発表を志し、学会誌等に
教編投稿し掲載された。論文作成
の困難性を知り、完成の喜びを体
得できたことは、立石姉によるも
のと、今も感謝の念をもち続けて
いる。

なお、短大在職中の二十一年間、
主として食生活関連の講演、実技
指導に要請を受ければ、余暇を利
用して社会活動の一助になればと
出向いた。対象は、幼、小、中学
の母親学級、老人大学、婦人大学
生活文化セミナー、母子家庭等自
立促進のための講演、さらに小、
中学校現職教育(家庭科)の講師
等々である。

平成元年三月、完全に教師生活
を離れた。これを記念に自費出版
を考えた。一つは私自身の論文、
随想、業績等々をまとめて「昭和
を生きる」と題名をつけ、今一つ
は健康な食生活のために「野菜た
ちのつぶやき」で何れも満七十九
才の時である。現在も三木市内を
中心に、各方面の講師活動を続行
中である。男性対象の講演依頼も
多く、中年男性の健康保持への関
心の深さを感じた。

物の摂取量を軽減して、油
の使用を増やし、食生活の
合理化を図ろうというもの
であった。私は家庭クラブ
員と共に、日曜日は勿論、
夏休みも返上して、研究と
実践に明け暮れた一年を送
った。ある時は八百屋の店
頭で、郡部では公民館等で、
油脂料理の実演に挑戦した
が、PTA、同窓会、婦人

会の方々の援助と激励を受け、成
功裡に終った。読売新聞に、昭和
四十一年度の兵庫県下の十大ニ
ュースに取り上げられたことも幸い
であった。あれから二十数年経過
した今日、油脂の過剰摂取が成人
病の誘発につながるとして、問題
にされているが、食生活の洋風化
と、加工食品の普及率の高さに、
感無量のおもいである。

昭和二十年三月、神戸市の大空
襲により家財のすべてを失い、そ
の上夫の病死という不幸に遭遇し
たが、母校の諸先生や友人たちの
励ましを受け、扶養家族五名(舅
と子供四人)を連れて現住地三木
へ。定年までの三木高校在職二十
二年の間、最も印象に残ったこと
は、昭和四十一年度の全国高校生
によるフライパン運動の実施校と
して、近畿地区代表に指定された
ことである。この運動は、炭水化

昭和二十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年
昭和四十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年
昭和四十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年

昭和二十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年
昭和四十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年

昭和二十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年
昭和四十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年

昭和二十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年
昭和四十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年

昭和二十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年
昭和四十三年三月、私は戦後の
混乱を乗り越えて、大過なく定年

フレッシユさん

藤巻美鈴(理・数)

現在、竹中工務店に勤めてい
ます。大阪本店総務部情報グル
ープに配属され、OA教育のイン
ストラクターをしています。講
習の日は、教育のための勉強
をしています。パソコンのトラ
ブル対応は、まだ状況把握が
できなくて、苦勞してはいる
ますが、内容の足りない部分
は愛想の良さでカバーしてい
ます。また、新しくシステム開
発をすることになりそうです。
充分な教育を受けていないの
で、非常に不安ですが、頑張
りたいと思います。色々な業
務をさせられて大変ですが、
私の部署は女性が多いこと
もあり、他部署に比べてやり
がいがあると思います。

一日も早く、業務に慣れ、
会社にとって役に立つ人材に
なりたいと思います。

谷口あゆみ(理・化)

現在私は、三菱電機株式会
社伊丹製作所に社会人として
の第一歩を踏み出した。半導
体のプロセス技術部転写技
術課に配属されて

二ヶ月近くになる。製作所
内でも忙しきはNo.1を競う
ような所で、20人近くいる
課の人間もふだんは四国の西
条にほとんど出張し、5、6
人しか事務所にはいない。つ
い最近私も初出張をした。ま
だ自分の仕事について理解が
できていないが、今は「とん
でもなく忙しい所になってし
まった。」というところを実
感しているところである。

出口陽子(理・化)

この4月に、三菱重工に入
社しました。職種はシステム
エンジニアなので、学生時代
に学んだ化学とは全く関係
がない仕事です。コンピュータ
も、ほとんど触ったことが
なく、不慣れですが、周りの
方が親切に教えてくださる
ので、はじめから一つ一つ
勉強しています。社会人にな
ったといってもまだ教育期
間中なので、今一つ学生気分
が抜けきれない感じもあり
ます。しかし、学生時代には
見られなかった大きな機械
を見た、船に乗ったり、いろ
いろ興味深い体験をしました。

三菱重工には、先輩がたくさん
いらっしやるので、いろいろ
教わりながら先輩方のように
頑張りたいと思います。

高瀬知子(家・住)

四年間の奈良での学生生活
を終え、この四月から神戸(大
林組)で働き始めました。生
まれも育ちも山口県で、今
一人で生活しながら、設計
の仕事をしており、分からない
ことはばかりで、一々時間が
かかり、早速残業もしてあり
ます。学生時代とは違う責任
感がありますので、生活のリ
ズムを壊さないようにしな
く、早く仕事を覚えたいとい
うことと、神戸は山あり、海
ありの素敵な所です。色々
と見て歩きたいです。仕事
にも遊びにも好奇心を持ち
続けたいと思います。私の現
況と決意を述べて自己紹介
とさせていただきます。何分
未熟者ですので、諸先輩方
どうぞよろしく願います。

日浦葉子(家・住)

社会人として新しいスタート
を切ったから早三ヶ月、毎日
があっという間に過ぎ、驚く
ばかりです。建設会社大林組
での設計業務という仕事柄、
九時十時までの残業は日常
茶飯事。先日は初めて休日
出勤を経験しました。しかし、
新人の女子と言えども与え
られる仕事は大変やり甲斐
のあるもので、何より、自
分の望んだ仕事に就いたと
いう喜びで、毎日を大変充
実した気持ちで、張り切って
送っています。

労働基準法による残業時間の
制限。果たしてこの仕事を
どこまで自分が続けていける
のか、などといった女ゆえの
問題や悩みにも、これから
益々ぶちあたっていくこと
でしょうが、今はとにかく
頑張ろう、という気持ちで
います。幸せなことに、私の
職場には先輩も多く、何か
とめんどうをみて頂いたり、
何かしら安心感があり、先
輩というものがありがたさを
改めて感じている今日この
頃です。

稲岡孝美(家・生経)

はじめまして。4月より社
会人となり、毎日があっとい
う間に過ぎてゆきます。

「三井海上火災」という保
険会社の神戸支店、交通事
故センターで毎日、人身事
故の処理を行っています。
今までは、ケガや事故とい
う言葉を聞いただけで寒
気がしていた自分が、こん
な仕事に携わるとは、いま
だに信じられませんが、
みな様も、交通事故には
本気で気をつけて下さい
ね。それでは、今後とも
よろしく願います。

清水久美(家・生経)

この春から社団法人関西経
済連合会に勤めています。略
して関経連と呼び、事務局
が大阪中之島にあり、より
小規模な事務所が東京に
あります。学生時代の感
覚が残っているので三ヶ月
以上経っても不規則な毎日
。もう少し充実した毎日
を過ごそうと考えていま
す。全部で70名近くの職
員がワンフロアで働き、そ
の半数を女性が占めていま
す。学生時代とは一味も
二味も違ったおつきあいに
戸惑いながら、仕事の方は、
コピー・ワープロ・お茶汲
み・上司のスケジュール管
理・その他いろいろ、その
日の状態に合わせてこな
します。

今年度は19人の方が新
しく入って来られました。全
員に連絡し、ご返事頂いた
方を掲載しました。その他
の方については、左にま
めてご紹介いたします。

その他の新入会員			
氏名	学部	勤務先	その他
井田 瑞江	文 社	大学院	
中塚 亜希子	文 英	県立松陽高校	
廣谷 真紀	文 史	リカ シカノ大学	
岡本 麻理子	文 史	コセイ コビヤ	
国崎 綾子	文 史	金子真珠	
藤原 博美	文 地	ノエピア	
濱田 安枝	文 教	日立西部	77777
木田 富美子	理 数	三菱電機	
森 美保子	理 物	三菱電機	
中村 香保里	家 被	ユニチカ	
石田 貴美江	家 住	神戸市職員	
中西 正恵	家 修	神戸女子大	被生

文芸欄

俳句・短歌・詩

讃歌

燦歌

散華

参加

—平成四年—

俳句

平成四年の観桜

箕浦千代子(大11・文)

卒壽過ぎ家族打ち連れお花見に

今年又お花見をする冥加かな

観桜に笑顔の一日寿命延ぶ

莫盛敷きて曾孫を膝にお花見を

花吹雪存分に浴ぶ心地よき

立石睦子(昭6・家)

鷺の群白く舞いつ夏過ぎる

雲の峰コーヒーの香り届けたり

ひそやかに葉陰を染めて石榴二つ

浴衣着て映す鏡に花覗く

茄子の花小さく咲きたり鉢の中

皆川總子(昭12・理)

緑蔭は遠き彼方よ万歩計

蚊遣火に蚊よりも先に喰せにけり

疲れだけ持ち帰り来てビール干す

ファッションに縁なく被る夏帽子

初物の桃の雫を手に余す

曾谷愛子(昭12・家)

小船浮き舞子浜の寒西

池の面に琴の音流れ月今宵

寒波来と三角波のあしはやく

湯の里を囲む山並み除夜の鐘

山菜や地酒身にしむ冬今宵

苦瓜恒子(昭15・文)

青雲の志といふことは黄沙降る

雲の峯「青年の船」解纜す

伎楽面の大きな鼻孔雁渡し

養経の鎧瀧酒に冬ざくら

白障子父の文房四宝継ぐ

内山美智子(昭20・理)

衣脱ぎデビュースせし蝶空さやか

尋ねたるふるさと明るし彼岸花

コスモスの花ゆるる里母の影

千種川清き流れに秋たわわ

墓参り車のなかの句の心

土井千鶴子(昭36・家被)

春愁や昔を語る友は逝き

柿若葉行事続きの疲れかな

盆の客去りて座敷に夫と在り

彼岸花あまた捨てられ通学路

枯菊を焚く寛ろぎをあじはひぬ

短歌

日下初子(大15・文)

われにやさしきころよせ給ふよ新緑の

茂みのかげを使ひびと来たる

旅立ちの日近しと知れど何かせんめでた

き菓子もてなくさめ給ふか

寺西とく(昭7・家)

沢をくだり摘み来しとかや延齡草の白花

織し夏炉の前に

ほととぎすけざとく啼きて翔びゆけりわ

が額に一閃光のこして

笹倉道枝(昭9・文)

命令をせずとも働く小宇宙にもうあとが

ない命あずけて

おなじみの三日月光淡くして畑去りがた

く戦時を想う

牛尾昌江(昭16・文)

椿落つ椿落つると詠みつきし老木に寄り

ひとり宴す

被とて人形にふるるはかなことも原初の

女の心もてする

田辺幸子(昭17・文)

我にのみ刻過ぎにきとな思いを愛する者

と共に老いしを

吾を生みし母はいづちへ行きけむと子に

言はする日の遠くあれかし

竹崎美佐保(昭18・文)

温泉の湧き湯を囲ふ石だたみ乾ける時に

ほのかに温くし

我に苦き国名ロシアを名のる新たなる

国地図に確かむ

遠くより娘は不意に来てひとときを何と

なきはなしして帰りゆく

東昌子(昭19・文)

この世かの世の境に匂へさくら花亡き人

びとも共に愛づべく

散りゆかむ日々をおもへば幻の世の花に

さへこころ惹かるる

川口志ほ子(昭19・文)

海棠の花に降る雨この少女は大事なこと

をさりげなく告ぐ

湯気といふ優しきものにいくばくか甘や

かされてゐて厨ごと

詩

白鷺幻想

川口汐子(昭19・文)

(春の段)
朝ぼらけ 霞に匂ふ 白鷺の 城の天守の千鳥破風・唐破風 こめて陽炎のうらうら
として 薫たつ 桜は八重か一重なる その面影も 千姫が 華灯の窓の片かげに
花と笑まひて 眺めけむ さくらぎの山・姫山に 今を昔と覺えたつ 燿よふなれや
天守閣

(夏の段)
白鷺の 翅ととのふる朝風に 城の緑ぞ 映ゆるなれ 白鷺の 飛び立たんずる 真
昼間の 大手の門ぞいかめしき 白漆喰に塗りこめて こめし思ひの隅櫓 夕べ憩ら
ふ 白鷺の羽交ひ見紛ふ 黄昏を 仄かにかかる 二日月 眉に似たるぞ 涼しけれ

(秋の段)
漆水に 映る石垣 萬もみち 水面の朱も 色映えて 武者が 潜みし 勢隠しの
森の静寂に 秋ふかむ いでや 一節 舞ひ出でむ 身をなげし 城の匠も あらは
れよ 井に果てし 菊のおとめも 立ち出でよ 秋の哀れを 交々に 霧に濡れつつ
嘆きなむ(扇かへして 恨みなむ)

(冬の段)
いにしへ思ひ 寝ねやらぬ 夜半を 静かに 降りいでて 尽ぬ想ひの 白妙に 松
が枝かけて おほひゆく 雪に天守は かき消えて おぼろに見ゆる西の丸 局廊下
に そら耳か そら耳ならず 魂ゆらぎ 琴の調べぞ 響むなれ 琴の調べぞ 響む
なれ

この詩は杵屋流芳村伊十七氏により作曲され(テープになっています)
舞踊は各流派や合同の発表会で上演されています。

平井恵美(昭19・文)

ささやかなわが鍍金を呑み樹林光るナシ
ヨナル・トラスト 天神崎は春
少額寄附そつと税申告書に書き添へて思
ふ 天神崎 海の早春

佐藤すなほ(昭19・家)

いままさば山なす話あふれしを父母夫思
う草取りしつづ
行き交いてほほえみかけるそのひとのお
名もわからず唯うれしかり

山川はる江(昭19・保)

石仏の館つくと岩を打つ響きが如月の
空を貫く(大分に旅して)
光る海をひとり占めて島の魚友と食み
いる早き春なり(淡路にて)

米満昌子(昭22・文)

生命得て再び歩むわが前にウスユキソウ
の白は輝く
今一度光りをと思ひて経たり透き徹る山
の蒼生に風吹き過ぐる
爽やかな夢みるごとき心地して紅の花九
輪草の真中

山下静香(昭22・家)

秋祭り標結う道の夕まぐれ般若の面にお
どり出でむか
木犀の花をしだき轍あり乳母車をおす
人の思いに

月森坤子(昭30・文国)

叫ぶあり黙々と歩むあり乙女らの稚き類
に青嵐吹く
濃きうすき動きかそけき樹々の緑初夏の
やまは生命みなぎる

日野千恵子(昭32・文英)

添い寝する真夜を覚むれば老い母は幼児
のごとすがりい給いぬ
病む母の唱歌のごときうわ言はハ美しき
天然Vに似しひびきあり

田中佳代子(昭40・文国)

海原は風を送り来 縦横になびく草原な
びくわが髪
夜の重さはかりたりしか手のひらはめざ
めてのちの手首の痛み

畑岡美智子(昭43・理動)

真夏日の白き光を染めわけて松葉牡丹は
しなやかに咲く
長き夏に熟るともなき銀杏は秋雨の中
にとまどいいたり

高階時子(昭48・文国)

食卓に投げ出されたるわが野望気付かれ
ぬまま家族太らす
若草の妻たりし日よ太刀魚を焼きつつ待
てば待つは無念と

地区だより

灘もより会

お互い、お近くに住まい乍ら、親しく御話をする機会もないまま過ぎる事の多い中で、もより会の意義は深いのですが、時期、時間場所、内容等の設定に、係りとして考えに考えてご案内をしても、皆様のご希望に添うことがむづかしく、お集りがごく少人数で、大変残念と言うのが正直な実態です。当地区では、それぞれお目にかかりたければ、支部総会、むつみ会等に出席すれば、或程度の希望を充たされるというのが影響しているのかもわかりません。しかし係りとしては何とか…と責任を感じております。

どのような会の設定にすればよいのでしょうか。地区の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

井上 たみ (S15・家)

松浪 美年子 (S28・文地)

東灘もより会

東灘地区では毎年十一月に「もより会」を開いております。十月も終わり近くなりますと、今年は

どこであるのかしらなどと楽しみにしていらっしやるお声も聞かれます。

毎回まわり持ちでお世話係をお願いしておりますが、今回は加藤様、西池様のお骨折りで、十一月十七日、阪急岡本近くの「花の木」で開かれました。目にも美しいお料理をいただきながらのおしゃべりは、いつもながら心なごむものでありました。同窓の睦じさに加えて、ご近所同志という心安さる集いとなっていることに感謝したことでした。

柳瀬 あや子 (S42・文園)

須磨もより会報告

月 日 三月二十七日(金)

場 所 三彩

参加人数 十三名

例年のティーパーティーとは、少し趣向を変えて、気楽に昼食を

一緒にしようというランチパーティーに致しました。美味しい中華料理に舌鼓を打ちながらお話は弾みまし

た。この日の話題の一つに、昨年須磨地区として、会員相互の親睦を深め、さらに充実させるべくアンケートをとったその結果報告が

ありました。会員の一人一人が豊かな経験とすばらしい特技や趣味をお持ちで、これらを会員相互扶

助に提供していただきたいと痛切に思いました。これから機会があれば、大いに生かされると確信すると共に、勉強会、見学会、ボランティアの集いなど、親しい仲間の輪を広げていきたいと思いました。当日にわかにか山科の毘沙門堂の枝垂桜鑑賞の話がまとまりましたが四月十日は、生憎の雨で中止となりました。先輩諸師のアドバ

イスを受けながら、いつものなごやかなもより会を持つことができました。この日の話し合いが、よい芽を延ばし実を結んでいくようみんなで努力したいと思えます。

世話係 山田桂子 (S31・文幼)

寺田 翠 (S37・文幼)

三輪孝子 (S49・理化)

西宮地区

もより会後記

平成三年度西宮地区もより会は、

和麻様(昭7卒)のご好意で、十一月二日、甲子園聖書教会で集りました。昭7卒の方から昭和37卒まで幅広く、十二名の集まりとなりました。

初対面の方もあり、それぞれの

伊丹地区

十月にもより会を開く予定です。ご出席下さい。

塚口郁子 (S35・家住)

三木・小野地区事情

戦時中に学生生活を過ごされた方より、学徒動員で舞鶴まで出かけられ、勉強どころではなかったと言ってお話を聞き、戦後、のんびりと本当に楽しい学生生活を過ごされたのも(私は昭34卒)先輩方がつくられた伝統と歴史の上に成り立っていたのだと、感謝致しました。同じ学舎で青春の一時期を過ごした者同志に通じるなつかしさで話は尽きませんでした。次回の集まりを楽しみに散会致しました。

永吉和子 (S34・理化)

竹崎美佐保 (S18・文)

計 報

松本夫佐子様 (大9・理)	平成3・11・19
山下 秀 様 (昭9・家)	平成3・11・29
井口美恵子様 (昭10・家)	平成4・2・11
村田千代子様 (昭11・理)	平成4・3・22
笹野美智子様 (昭29・理化)	平成4・6・9
綿谷 檜枝様 (昭23・家)	平成4・6・12
稲岡 久美様 (昭5・家)	平成4・7・3

事務局だより

- (1) 行事(平成3・10・4・9)
 - ・本部会報・支部だより第15号発送(平成3・11)
 - ・睦会(平成3・11・10)
 - ・御影シテイガーデン牡丹園別館
 - ・役員新年会(平成4・1・7)
 - ・竹葉亭
 - ・佐保婦人学級
 - ・三年度閉講(平成4・2・25)
 - ・四年度開講(平成4・4・13)
 - ・支部総会(平成4・7・4)
 - ・東急イン 出席46名
- (2) 平成5年度兵庫県支部総会予定決まる
 - ・日時 平成5年6月6日(日)
 - ・10:00~12:00 議事・講演
 - ・12:00~15:00 パーティ
 - ・場所 アーバングルメポート
 - ・RICホール(四階)
 - ・交通機関
 - ・六甲ライナー
 - ・アイランドセンター駅
 - ・JR「住吉」又は
 - ・阪神「魚崎」乗り換え
- (3) お知らせします!
 - ・十月から翌年九月までに、どの分野でも本を出版された方は、

平成4年度 地区リーダー一覧

地区名	氏名	地区名	氏名
神戸市	東灘区 仲野 裕美(S40・家食) 柳瀬あや子(S42・文)	芦屋市 吉井 豊子(S19・保) 久米 寿子(S39・家被)	
	灘区 井上 たみ(S15・家) 松浪美年子(S28・文)	伊丹市 塚口 郁子(S35・家住) 都筑 暎子(S37・家食)	
	中央区 横山しづ子(S31・文)	宝塚市 中村 俊子(S9・文)	
	兵庫区 上田ユクエ(S4・文)	明石市 津田ひさ子(S16A・家) 加古川市 丁子はつみ(S16B・家)	
	北区 小田 清子(S10・家)	三木市 竹崎美佐保(S18・文)	
	長田区 郷 美美枝(S8・理)	小野市	
	須磨区 近藤 房子(S6・文) 八木 静子(S9・文)	姫路市 山下 静香(S22・家) 相生市 土井千鶴子(S36・家被) 赤穂市 安東 和子(S38・理生) 竜野市 赤穂郡 揖保郡 神崎郡	
	垂水区 曾谷 愛子(S12・家) 竹田喜代子(S22・理)		
	西区 平田 美都(S19・保)		
	尼崎市 佐藤すなほ(S19・家) 中野 久子(S29・理) 鈴木 久子(S37・家食)	三原郡 前川 節子(S33・家被)	
西宮市 正田 純子(S20・理) 森岡 泰江(S32・文幼) 長岡 加代(S33・理)			

●婦人学級連絡先

小田清子 ☎ 078-591-5468 山川はる江 ☎ 06-431-4856
坪根ミキ ☎ 078-452-0550 井上たみ ☎ 078-811-4700

●「若草」の運営委員ほぼ決まる 連絡先事務局

◆編集後記
一年でも早いほうが楽よ!と依頼されるまま順序をとばして、あっさりお引き受けした「支部だより」編集。委員の編成、企画から原稿依頼、割付けと実にスムーズに進行しいよいよ発刊の運びとなった。原稿依頼は皆様方、大変快くお引受下さり、支部を支える会員の實力に甘えての編集であった。紙面の都合で、少々、省略させていただいた点はお許し下さい。また、会員の書籍出版等の紹介の計画は、紙面不足のため総て割愛したが残念であった。

印刷所(姫路) 松尾印刷株式会社

- 1. 書名、出版社、定価、内容の要約等を事務局までお知らせ下さい。支部だよりで皆様に紹介したいと思えます。
- 2. (4) お問い合わせ! 支部会費未納の方は会報送付の際、振込用紙を同封いたしておきますので、ご協力下さい。振込用紙の封入されていない方は、既に払込済みです。住所・勤務先を変更された方は、至急、事務局までご連絡下さい。

佐保婦人学級御案内

佐保会兵庫支部の運営する佐保婦人学級も、はや10年を迎え、堅実な歩みを続けています。

次年度の予定を発表できないのは残念ですが、来春4月には準備が整います。事務局または担当者にお問い合わせ下さい。より大きく人の輪を!より高い教養の輪を広げたく、多くの方々の御参加を願っています。

当日のみの参加、会費以外の方の参加もOKです。

◆会費 年間 3,000円 当日 500円

平成4年度 佐保婦人学級年間予定

月・日・曜日	時間	内容	講師	会場
4・13・月	13:00~15:00	開講式 日常食の諸注意	津野 貞子 先生	三井信託銀行
4・27・月		あさぎり病院内 むつみ荘見学	仲上 徳子 先生	
5・26・火	13:00~15:00	俳句	和田 悟朗 先生	勤労会館(三宮)
6・9・火	13:00~15:00	俳句	和田 悟朗 先生	勤労会館(三宮)
6・22・月	13:00~15:00	組み紐	小田 清子 先生	三井信託銀行
7・7・火	13:00~15:00	ホームカバー	山川はる江 先生	勤労会館(三宮)
9・14・月	13:00~15:00	ホームカバー	山川はる江 先生	三井信託銀行
10・5・月		秋を楽しむ		
10・26・月		お茶	吉井 豊子 先生	
11・17・火		試食会		
1・26・火	13:00~15:00	健康設計		勤労会館(三宮)
2・23・火	13:00~15:00	閉講式 婦人学級 10年をふり返って		勤労会館(三宮)